

誌上行学講習会

高佐日煌上人

天上心の菩薩心は善行満足心。これは貧しい人を見ては、何か物をほどきさないではいられないという心と言います。そして物を与えて「あゝ良いことをしてよかったです、氣持がいゝ」という満足の心になることでもあります。

天上心の仏陀心は博愛満足心。これにはいさゝか金がかかるといふやうであります。前にもお話し致しましたが、大磯のウイリアムスサンダーホームの沢田夫人、この人は戦前日本の財閥として有名な岩崎弥太郎氏の令嬢であります。いくら時代は変わっても「大川に水絶えず」で金の方はいくらもある。その親から与えられた全財産を投じて「孤児保育」という博愛慈善の聖業を始めたのであります。実に尊いことゝ言わねばなりません。

以上見て来た心の在り方、動き、即ち六道の百界心理は誰でもが経験する心理であります。次に「四聖」といういさゝか高い次元の「心の世界」に入つて参ります。この四聖の心にはよほど心がけるか、専門にはけむかする人でないとなれないのですが、一心に努力をすれば必ず達する心であることを知っておいていただきたいと思ひます。

四聖の第一は「声聞心」であります。これは学者の世界といふことでもあります。学問を仕事にしている人達の社会であります。

声聞心の地獄心は独善境心。自分だけが偉く、世人達は馬鹿だといふうぬほれの心であります。我れ一人尊しとする心理であります。支那の詩に

「世ごとく濁り、我れ一人澄む。世ごとくく眠り、我れ一人醒む」といふのがありますが、これ等は「独善境心」がよくなる人です。世間のねむりては、濁るだけ、清くは正しく起きている。濁らば、世の中、調子に、ある老人が「それなら、いいか、世の中、調子を合せて暮らしたい」といふ体は、石をくゞりつけて断つた。出来ないとこの詩人は「俺はそういふことは断つて出ない」といふことあります。孤独善境心は一種の孤独心にも通じるところです。

声聞心の餓鬼心は知識欲旺盛な心であります。これは知識欲旺盛な心でありまして、学問をとことんまでやりたいといふことがなく、まあ大変結構な心と言ふのであります。

声聞心の畜生心は淫智行心。これは智行に淫する心と言ひます。知識欲が旺盛といふのと、型が違ふ。同じ旺盛でもいさゝかくせのある方で、智行に溺れているといふ心状態であります。

声聞心の修羅心は競智行心。学問を競う、他の学者と学研を争うといふような学問上の論争を起す境地を言ふのであります。

声聞心の人間心は智平静心。つまり普通の知識人としての型にはまった生活をして居る境地を指すのであります。

以下次号